

姫路駅北駅前広場の計画・設計について

八木 弘毅^{※1}・大藪 善久^{※2}



1. 概要

姫路市中心部は、姫路城という日本の伝統的建築文化の象徴とビスターアイストップという西洋的空間構成が重ねあわされた都市空間となっている。姫路駅北駅前広場は、幅員50mの大手前通りによって、姫路城と結ばれている。姫路駅を降りて北駅前広場に出ると、大手前通りのビスタが眼前に広がる。来訪者と姫路城が向かい合うかのような体験を演出している。(図1)

駅前広場においては、一般車乗降場は東西に集約され、中心部は、歩行者のための芝生広場やサンクンガーデン、待ち合わせスペースとなっている。車道については、一般車を排除し、バストランジットモールとして現在運用されている。

当該整備は、基本計画・設計から実施設計まで約5年という期間を経て、市民参加型の設計プロセスで設計が行われた。

デザイン検討の体制としては、基本設計時に、明治大学小林教授の呼びかけで、小野寺康氏、南雲勝志氏、渡邊篤志氏、高松誠治氏が集まり、デザインチームが組織された。基本設計～実施設計までデザインチームによりデザイン検討・現場監理(キャッスルビュー・キャッスルガーデン)が行われた。駅前広場地表部に関しては、デザインチームのエスキスを受けながら、八木・大藪にてデザイン検討・設計を進めた。基本レイアウトを図2に示す。また、設計・工事の体制等を以下に示す。

所在地 兵庫県姫路市駅前町、西駅前町及び南町地内

用途 駅前広場・道路・歩行者デッキ等

建築主 姫路市姫路駅周辺整備本部

設計 基本計画; 日建設計、基本設計; 日建設計+日建設計シビル、実施設計; 復建エンジニアリング(ペDESTリアンデッキ・キャッスルビュー・サンクンガーデン)、日建設計シビル(地

表部)

施工 ノバック(地表部)・大林組(サンクンガーデン)・飛鳥建設(デッキ)

敷地面積 約21000㎡

工期 2012年～現在(大手前通り等一部工事中)



図1 キャッスルビューから姫路城を望む

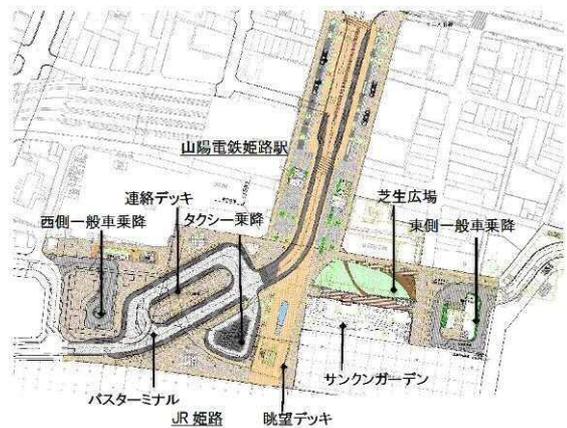


図2 駅前広場のレイアウト

2. 計画主旨・コンセプト

学生ワークショップに端を発し、「姫路駅北駅前広場推進会議」や現在も活動している「駅前広場活用協議会」をはじめ多様な市民活動が生まれ、それら市民との対話の中で下記のコンセプトが設定された。

「城を望み、時を感じ人が交流するおもてなし広場～「先進性」と「和」が融合したデザイン」

このコンセプトを具体化する形で検討・設計が進められた。

3. 設計の特徴;コンセプトを具体化する設計内容

計画コンセプトを計画要素ごとに具体化し、計画・設計を取りまとめられた。「人が交流するおもてなし広場」としての芝生広場は、イベント利用可能な芝生空間の周縁に、イベントの様子を眺めることができる木製座面の椅子が配置した(冒頭写真)。また、「時を感じる」要素として石・鉄・木材・レンガなどの自然素材を使用している。車道部分はC交通量でありながら、特殊なモルタルを使用することで、石畳舗装を実現している(図1)。また、「城を望む」視点場として眺望デッキ(キャッスルビュー)が計画された。これは、昔駅周辺にあった姫路城内と城外を隔てる飾磨門の現代的解釈によって「先進性」と「和」を表現したデザインとなっている。(図4)更に、姫路城へのオリエンテーションを強化する手法として、先述の石畳舗装による「眺望軸」のデザインを行い、駅前に来た来訪者と姫路城が向かい合う体験を演出している。



図3 キャッスルビュー

コンセプトを具体化するだけでなく、使い手である市民の意見を反映している(図4)。設計に当たっては、樹種・ベンチ位置やイベント対応のインフラ(上水・電気・雑排水)の仕込み、待ち合わせスペース(図5)などに市民の意見が反映されている。



図4 市民+デザインチーム+行政+設計者による合意形成の様子



図5 待ち合わせスペース(地場産杉材を座面に使用)

4. 最後に

本整備は、行政・デザインチーム・市民・設計者・多くの学識者の努力によって実現できたものであると考えている。また、現在、白銀交差点～姫路城までの大手前通り再整備基本設計を行っている。まちづくりはまだ始まったばかりであるが、このような仕事に巡り合えたことに感謝の意を表し、報文を終えることとする。

【要約】

世界遺産姫路城に正対する姫路駅北駅前広場の計画・設計について報告する。姫路城にふさわしい市民に愛される駅前広場とは何か。素材は何を選ぶべきか。どのような形態がふさわしいか。どのようなプロセスで設計を進めていくべきか。公共空間のデザインにおいて、多様な観点と視点がある中、若手技術者が苦しみながら得た知見と反省を共有することで、オープンな議論のきっかけを作ることができれば幸甚である。

※1 (株)日建設計ビル 施設設計部門 設計部

※2 (株)日建設計ビル 開発部門 設計部